

# JPTA/USPTA 認定プロテストの為の学習案内

公益社団法人日本プロテニス協会  
資格認定委員会

これはプロテスト受験の準備を手助けしようとする意図で作られたものですが、それは同時にあなたがプロとして、テニスについての知識を増やす事を手助けしようとするものでもあります。多くを知れば知るほどあなたはさらに一段高いプロフェッショナルになることでしょう。もしあなたがテニスプロとしての自分自身を向上させようとして意識しこの学習案内に従い学習するならば、その過程において必ずや何かしら学び取り、あなた自身に益することがあるでしょう。私達はそんなあなたがプロテストに合格し、我々の仲間としてお迎え出来る事を心から期待しております。

## 《テスト科目》

1. 筆記テスト
2. プライベートレッスン
3. グループレッスン
4. グリップテスト
5. ストロークアナリシス
6. 打球テスト

### 1. 筆記テスト (2時間：200点満点)

評価基準：テニスの総合的知識を有しているか。

#### 1) 指導法 (50点)

初心者から上級者までの各ストロークの一般的な技術論、及び、それに基づく指導法や矯正法を上達についての考察を加味しながら、様々な対象者に対しての個人及びグループレッスンの手順や考え方等を含む問題。

#### 2) 技能 (50点)

初心者から上級者における一般的な技術の使われ方や身体の使い方、身体の運び方について、また、ゲームでの局面における精神的、技術的な対応、方策を含む問題。

#### 3) 経営企画 (50点)

プロショップ・トーナメントの管理・運営、スクールやクラブ、また Jr プログラムの運営・企画について、契約の内容やその他コンサルタント的事柄についての問題。

#### 4) プロとしての行動 (8点)

プロの指導者として必要な資質を教育的な側面、日常の心構え、集団での統率能力的な側面、また、スポーツマンシップ等からの問題。

#### 5) ルール (16点)

「ルールブック」からの問題。

#### 6) 歴史 (10点)

一般的なテニスの歴史に関する問題。

#### 7) 定義と表現 (12点)

テニス用語や一般的なテニス知識についての問題。

#### 8) コートの保守 (4点)

コートの保守についての問題。

## ※評価基準点

JPTA プロフェッショナル 1 USPTA プロフェッショナル 1	A B C の各分野で最低 40 点を取り、 合計点数が 170 点以上であること。
JPTA プロフェッショナル 2 USPTA プロフェッショナル 2	A B C の各分野で最低 35 点を取り、 合計点数が 150 点以上であること。
JPTA プロフェッショナル 3 USPTA プロフェッショナル 3	A B C の各分野で最低 30 点を取り、 合計点数が 120 点以上であること。
JPTA インストラクター	A B C の各分野で最低 25 点を取り、 合計点数が 100 点以上であること。
不合格	A B C の各分野で最低 25 点未満か、 合計点数が 100 点未満の場合。

## 2. プライベートレッスンテスト (1人・25分：教授法テストシート参照)

評価基準：生徒の問題点を見出し、技術的に向上させる能力を有しているか。

レッスンのテーマは基本 6 ストロークの中から直前に出題される。レベルは初心者から中級程度の生徒さんである。評価する基準は概ね次の通り。

- 1) 教師の印象・・・外観・態度・言葉の使い方・話し方・テニス技術。
- 2) レッスンの雰囲気・・・緊張を取り除く工夫、楽しくて明るい雰囲気、ためになる工夫。
- 3) 教授技術・・・レッスンの手順、起承転結、問題点の発見と矯正。  
表現力や意思の伝達方法（簡潔さ、明瞭さ、明快さ）

## 3. グループレッスンテスト (4人・30分：教授法テストシート参照)

評価基準：共通のテーマの中にも個々へのテーマも無視せずに楽しく上達させる能力を有しているか。

上記プライベートレッスン 1)、2)、3) に加えて、

- 4) グループとしてのまとめ方  
グループとしての問題点の捉え方、ドリルやローテーションの工夫、安全性、個々への目配り。

## 4. グリップテスト (筆記・口頭テスト)

評価基準：正しいグリップを指導する知識を有しているか。

- 1) イースタンフォアハンド、イースタンバックハンド、コンチネンタル、セミウエスタン、フルウエスタン、両手打ちの各グリップについての利点・不利点を 2～4 つ記述する。
- 2) 上記の各グリップ毎に、打点と打球時の身体の向きと握り方を示させること。
- 3) 上記の各グリップにつき、手の「heel」と人差し指の「base knuckle」でグリップとの接点を番号で説明する。

## 5. ストロークアナリシス (15問)

評価基準：手本との相違点を見分ける能力を有しているか。

Fst、Bst、Sr 各 3 問

Fv、Bv、Sma 各 2 問

基準となる打球フォームと出題との相違点を発見すること。